◆ 部門活動紹介

課題解決のためのワークショップのススメ

スリム Japan 副理事長
（(株)ガイアート TK）
鈴木　泉

サービス提供部門並びに土木学会・シビル NPO 推進小委員会と共同で，地域活動への NPO の貢献のあり方を探るための調査研究活動を行ってきました。前回、前々回で報告の通り、今後の検討課題があるものの、貢献が期待されていることが分かりました。そこで、本会では地域活動推進部門の中心活動組織として「自治体インフラメンテ事業化研究会」を発足し、現在具体的な活動を進めるために、会員でのインフラメンテナウンスの基本情報を共有し、千葉県を主な調査対象地域した中で自治体を対象としたプロジェクトに向けて情報収集しているところです。また、国土交通省がインフラメンテナンス産業の育成・活性化を図るために、産官学が総力挙げてこれに取り組むプラットフォーム「インフラメンテナンス国民会議」の設立に向けての意見交換会にも積極的に参加し、研究会活動から得られた知見に基づく提言・提案が今後に向けて出来ればと考えています。

自治体を対象としたプロジェクトに向けてワークショップを導入した今後の進め方

現在、自治体を対象としたプロジェクトに向けて３つの提案について検討しています。

１）住民との情報・現状認識の共有に関する提案
２）住民との合意形成に関する提案
３）PFI/PPP の活用方法に関する情報提供と方策提案

いずれにしても、「公共施設等総合管理計画の策定段階において、議会や住民への十分な情報提供等を行い策定することが望ましい」ことから、各提案の共通した目的は、住民が総合管理計画の趣旨・内容の理解を深め、自治体は計画の方向性に関して住民の視点を付加することです。その方法として、自治体職員、住民及び第三者的な専門家やコーディネータを含むワークショップを開催し、現地視察を通じて、対象施設・自治体の現状に関する認識を共有し、先行事例の学習等を段階ごとに柔軟に継続して行くことが必要と考えています。

自治体をサポートする形でこれらのワークショップをNPO が率先して行くことが大きな役割となっていきます。「ワークショップ」は、もともと「作業場」「仕事場」など共同で何かを作る場所を意味しています。講師の話を参加者が一方的に聞くのではなく、参加者が学習の場に積極的に参加し、相互に学び合う過程を通じて様々に気づき，発見する参加体験型の学習方法です。ワークショップは、模造紙と付箋等の簡単な道具だけで、現状のそれぞれの立場、環境での様々な問題点を洗い出し、お互いに共有、理解する場面には大きな効果を発揮します。スタートしてから、円滑に継続するには、ある程度のテクニックは必要ですし、複数の役割を演じる進行役を意味する「ファシリテーター」の存在が大きな鍵を握ります。今後のプロジェクトに向けての進め方としてこの「ファシリテーター」役の充足と訓練も必要です。ワークショップの効果として、問題を解決していく体験を通して、地域・参加者の絆を深めることから、機会があれば積極的に様々なワークショップ活動に参加することが近道と考えます。サービス提供部門のパワーアップセミナーでも推進しています。部門を越えて活動の問題解決、改善提案等、身近なところからワークショップの実践はいかがでしょうか。

平成 28 年２月